

災害フォーラム「地震・津波・噴火、そして豪雨や竜巻などの風水害へ備える」

日本建築学会九州支部災害委員会

委員長 高山峯夫

1. はじめに

近年の自然災害の多発により、「地域防災力」の向上が求められている。本会は強風災害に関する知識と情報の普及や防災対策への支援を目的に、市民や自治体職員等を対象にした災害フォーラムを他学会と協力して九州各地で開催し、特に地域の特性に関連した討論を行ってきた。今回の災害フォーラムは日本風工学会と日本建築学会災害委員会、日本建築学会九州支部との共催で企画を進め、2015年12月18日に宮崎市民プラザ大会議室で開催された。

2. 講演概要

九州大学の神野達夫教授（日本建築学会九州支部災害委員会幹事）の司会により、福岡大学高山峯夫教授（日本建築学会九州支部災害委員長）による開会挨拶と趣旨説明があり、続いて4人の講師による講演が行われた。



最初に都城高専の山本剛准教授より、火山災害に対する住民・建築の備えと題して、火山の降灰による被害事例や降灰荷重に対する建物の安全性の検討結果が紹介された。火山灰の密度は雪の10倍もあり、また溶けないので火山灰の堆積には注意が必要。また、火山噴火に伴う地震の危険性が指摘され、地域の火山ハザードを理解し対策を考えておくことの重要性が示された。



宮崎大学の原田隆典教授から地震津波に対する住民・建築の備えと題して、地震による低地での液状化や津波、火災を含む被害の事例、シミュレーションによる地震動や津波の予想と対策が紹介され、企業を含む自助・共助・公助の必要性が述べられた。長い目でみると、地震の活動はわりと規則正しいといえる。日向灘沖地震の活動歴をみると2010年ごろから活動期に入っているはず。災害を減らすための対応が必要。



同じく宮崎大学の宮城弘守助教からは、風水害に対する住民・建築の備えと題して、宮崎で風水害の発生要因や被害事例が紹介されたほか、避難誘導標識やハザードマップの表示方法への疑問が示された。ハザードマップの色分け表示が国交省と宮崎市とは異なっており誤解を招くのではないかと。また、宮崎での竜巻は台風に伴う場合が多いこと、台風への事前の備えが重要であることが解説された。



最後に宮崎市危機管理課の岡田繁樹課長より、宮崎市の防災・減災への取り組みと題して、宮崎市の災害時の対応体制や南海トラフ巨大地震に対する被害想定、津波避難タワーや防災無線の整備等のハード対策、自主防災組織の結成促進や自治会ごとの津波避難行動計画、避難所レイアウトの作成等のソフト対策および防災情報の伝達手法等が紹介され、普段からの心構えや避難時の対応の確認が重要であることが述べられた。

講演後には講師陣との意見交換の時間が設けられ、会場からは液状化や津波への具体的な対策、防災士の活用手法等の行政施策に関する質問があった。

3. おわりに

宮崎市で開催された災害フォーラムは、さまざまな災害を取り上げた多彩な内容であった。参加者は約30名で充実した討論が行われた。参加者へのアンケートからは、講演内容を評価するという回答が多かったものの、もっと多くの市民に参加して欲しかったとか、市民目線での話題提供も必要ではないかとの意見もあった。本フォーラムが宮崎地域の総合防災力向上への一助となれば幸いである。

謝辞

フォーラム開催にあたり、宮崎県、宮崎市の後援を、NPO法人宮崎県防災士ネットワークの協賛を得ました。また、宮崎大学の関係者にご協力をいただきました。末筆ながら記して謝意を表します。